

県立高等学校教育の在り方に関する地区別懇談会（沿岸南部地区） 懇談の記録（要旨）

【陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市、大槌町】

令和6年5月21日(火)
三陸公民館 大ホール

佐々木 拓 陸前高田市長

- ・ 岩手県は、医者が盛岡市に偏在しており、沿岸の医師不足を解消するため、気仙地区に医系進学コースを設置していただきたい。
- ・ 高田高校は、地域の特色を踏まえた取組をしたいと考えており、県教委に支援いただきたい。
- ・ 新たなコースや学科を設置する場合は支援をいただきたい。

淵上 清 大船渡市長

- ・ 生徒数だけで再編するのではなく、再編した場合も教職員の配置等を配慮していただきたい。
- ・ 医師養成も大事であり、市においても、医師養成を意識して教育の底上げをしていきたい。
- ・ 普通高校においても、民間事業者と連携する機会を増やしていただきたい。
- ・ 高校の教育内容を三年間でまとめるのは厳しいのではないか。
- ・ 教員の配置をより厚くすれば教育環境が改善されるものと思われる。

神田 謙一 住田町長

- ・ 少子化が全国より先駆けている岩手県ならではの高校教育の在り方を検討する必要がある。
- ・ 医師不足解消のため、沿岸部の教育環境を整備していただきたい。

小野 共 釜石市長

- ・ 教育と町づくりは密接に関わっている。
- ・ 釜石市に難関大学等への進学率の高い高校を設置していただきたい。
- ・ 専門高校について、その地域のニーズを高校教育に反映させ、高校を卒業して即戦力となる人材を育成していただきたい。
- ・ 医系進学コースを沿岸もしくは県北に少なくとも一つ設置していただきたい。

平野 公三 大槌町長

- ・ 大槌高校は、町になくってはならない存在であり、地方創生や地域活性化の核になっている。町としても高校魅力化に取り組み、全国から生徒に選ばれる高校にしたいと考えている。
- ・ コーディネーター等の専門的な人材の配置等について、県として積極的な配置をお願いしたい。
- ・ 中間まとめにいわて留学について明記いただきたい。

伊東 孝 陸前高田商工会 会長

- ・ 高校は、地域を担う人材育成や地域活性化等にとって大きな存在である。生徒数だけで高校を再編するのではなく、地域の実情を考慮していただきたい。
- ・ 遠隔教育を充実させ、生徒が平等に教育を受けられる環境を整備していただきたい。
- ・ 学校間連携で予算を抑える工夫をしていただきたい。
- ・ 学校と地域の連携を進めていただきたい。

吉田 宏 広田湾漁業協同組合 共済課長

- ・ 専門学科の卒業生の就職者の割合を伺う。

齊藤 光夫 大船渡商工会議所 専務理事

- ・ 地域や地域産業を担う人材の育成は、非常に大事なことである。地元の高校を卒業しても、専門学校、大学等を卒業してもほとんど地元就職しないのが実情である。地元で貢献したいと思える教育が必要であり、大人が地元の魅力を高めなければならない。

柏崎 明彦 大船渡市農業協同組合 常務理事

- ・ 県内の農業系の高校を全て全寮制にし、各地域を交流して学ぶことにより、切磋琢磨しながら各地域の農業を学ぶことができる幅広い教育が可能になるのではないかと。また、全寮制にすることにより、交通の便や地域性を考慮せずに済むのではないかと。
- ・ 懇談会の出席者に女性が少ないので、地域からの女性の流出を防ぐためにも、女性の意見を聞くべきである。

千葉 憲一 気仙地方森林組合 業務課長

- ・ 住田高校に、大船渡市、陸前高田市、遠野市、釜石市そして関東から生徒が入学したのは、住田高校と町が一体となった高校の魅力づくり、一人一人に寄り添った支援の成果である。
- ・ 地域の森林組合が高校生を受け入れ、林業体験を実施している。
- ・ 住田町は地域創造学で、地域の人たちが自分の仕事を高校生に見せる取組をしている。

千田 明夫 有限会社ハーネット 代表取締役

- ・ 県立高校の基本的な考え方として、持続可能な社会の創り手、地域や地域産業を担う人材の育成が挙げられているが、まさに地域社会において多種多様な社会問題が顕在化している。
- ・ これからソーシャルビジネスや、コミュニケーションビジネスなどの新しい社会貢献型ビジネスを創り出す必要性に迫られており、そのような人材を輩出できる高校教育が、今後の持続可能な社会へと繋がっていく。
- ・ 大学を配置しない地域にとって、高校は人材育成の中核的存在であるので、魅力ある高校をどう創造していくか、地域社会とどう歩んでいくのか、地域に対するミッションとは何かを明確化することが基本的な考えに資するのではないかと。

小笠原 順一 公益財団法人釜石・大槌地域産業育成センター 海洋エネルギー産業化コーディネーター

- ・ 海洋エネルギーについて、釜石高校のSSHの授業の一環として実施している。これまで波力発電に特化してきたが、今年は幅を広げて環境問題というテーマで、CO₂削減についての講義やワークショップを開催したところ、女子生徒の参加率が倍増した。
- ・ 地域の企業を知ってもらうため、インターンシップや商品開発等で高校と地域企業の連携をしていただきたい。

兼澤 幸男 MOMIJI株式会社 代表取締役

- ・ ジビエ事業そのものが町の課題で、町や県の理解と協力があり活動している。地元だけではなく県内の高校生がジビエ事業に興味をもち、インターンシップの受入れや、講演活動をしている。
- ・ 高校生は、地域課題を持続可能な事業に変えられる可能性を秘めており、大人にはない視点を持っている。

芳賀 光 有限会社ティー・ティー・エムつつみ石材店 代表取締役

- ・ 人口減少社会において高校再編が大きな課題であるのは共通認識である。
- ・ スーパーキッズのように、小中学校段階から優秀な児童生徒を医師育成する制度を作ればよいのではないか。
- ・ 普通科は特化したものを進めるべきである。
- ・ 郷土を愛する気持ちは小学生から養うべきである。

戸羽 真広 陸前高田市立高田東中学校PTA 会長

- ・ 成長段階において、幼少期に植え付けられた地元の魅力は大きなものである。
- ・ 1次産業に与える環境問題等の専門的な教育を高校で行うことが重要ではないか。
- ・ 学力だけではなく、心を豊かにし、社会を切り開くことを大切にしていきたい。

深野 賢一 住田町立住田中学校PTA 副会長

- ・ 看護師や医者になりたいという生徒が多く、そのような高校、学校が地元であればよい。
- ・ 住田高校の地域創造学の取組が素晴らしい。
- ・ YouTube で配信されているチェーンソーアートを見て興味を持つ生徒もあり、魅力を発信することは大切である。

小笠原 慎二 釜石市PTA連合会 会長

- ・ 高校を選択するとき、進路目標や部活動等の他、通学に掛かる費用や時間も重要である。
- ・ 普通高校は、盛岡第一高校以外の特色がよくわからない。
- ・ 単位制で遠隔授業をするのであれば進路に合わせた科目を選択し、授業の空いた時間は企業訪問や部活動をするなど、自分たちの時間を自由に使える教育であれば、広い視野を持つ生徒が育つのではないか。

芳賀 新 大槌町立吉里吉里学園PTA 会長

- ・ 地域と協力し、特色・魅力ある選ばれる高校になっていただきたい。
- ・ 少子化は避けては通れないが、生徒数だけで統合していただきたくない。
- ・ 私立高校は教育内容が特化しているが、県立高校は特色が曖昧である。
- ・ 沿岸に医系進学コースを設置できればよいが、教員の質の担保の問題がある。教員の質の担保ができないのであれば高校を減らすのもやむを得ない。
- ・ 少子化と言われて子どもたちが一番不安になっている。
- ・ 地域に出て活動しようとしている生徒には、県、市町村、PTAが支援すべきである。

山田 市雄 陸前高田市教育委員会 教育長

- ・ 東日本大震災津波以来、県北沿岸の募集定員に配慮いただいたことに感謝するが、これだけ少子化が進むと、このままでよいのかと感じる。
- ・ 沿岸南部から地区外の高校に進学した生徒が、6地区の中で最も少ない要因は、専門学科の全てが地元にあることだと考えられる。
- ・ かつては普通高校に行けないから専門高校へ行くという風潮もあったが、今は進学校でも定員割れをしている中で専門高校を選択している。
- ・ 地区内の5つある大学科を定員の工夫等をしながら維持していきたい。

小松 伸也 大船渡市教育委員会 教育長

- ・ 生徒が早い段階から偏差値に慣れていることが、意識調査の中で自己肯定感が低いことの一因ではないか。
- ・ 県内でも盛岡地区の高校に人気集中していることから、家庭環境や地域による学力差が今後さらに拡大するのではないか。
- ・ 生徒の優れた才能を伸ばす教育が一層求められている。
- ・ 中学生で明確に進路選択をしている生徒は極めて少ないと思われる。
- ・ 令和の日本型学校教育を実現するために、STEAM教育やアクティブラーニングを通して、個別最適な学びと協働的な学びの実現を図っていただきたい。
- ・ 気仙地区の適正規模を考えると、学級減は避けては通れないのではないか。
- ・ 専門高校の学科の見直しは、地域の産業等の実情を十分把握した上で検討していただきたい。

松高 正俊 住田町教育委員会 教育長

- ・ 気仙地区の高校の募集定員については、人口減があるためやむを得ない。
- ・ 様々な背景をもつ生徒や教育上特別な支援を必要とする生徒のために、インクルーシブ教育環境の構築が必要である。教育の機会の保障の役割を果たす高校が必要である。
- ・ 人口減を課題とする地域において、町から高校がなくなることは、さらに人口減が進む要因になると考えられる。
- ・ 特例校の設置条件を、人口の少ない町村を対象とする等の柔軟な対応をしていただきたい。
- ・ 校舎制の導入等で現在高校のある市町村には、高校を存続させていただきたい。
- ・ 通学区域については、市町村を越えた普通科の隣接協定などを考えていただきたい。

高橋 勝 釜石市教育委員会 教育長

- ・ 自分の生き方を主体的に考え自立し、社会の一員として社会をつくる人材の育成を大切にした高校の在り方を議論していただきたい。
- ・ 定時制高校は、不登校等の生徒の受け皿になっている面が大きいので、生徒の学び直しの場としても考えていただきたい。
- ・ 医系進学コースは沿岸部に設置し、沿岸部の振興に繋げていただきたい。
- ・ 専門高校の広域再編については、地元の企業に必要とされる人材を育てるべきである。
- ・ 居住地によって教育の差が生まれぬような教育環境の整備を再編計画の中で打ち出していきたい。

松橋 文明 大槌町教育委員会 教育長

- ・ 学級数により教員の配置数が決まる制度について、検討が必要である。
- ・ 教員が配置できなくても学校間での遠隔授業により補える体制を構築していただきたい。

佐々木 伸一 気仙地区中学校長会（大船渡市立末崎中学校長）

- ・ 生徒が多様化している中、生徒数の減少に伴う定数減や学級減はやむを得ないが、気仙地区として、最低限度の普通高校、専門高校、定時制高校の教育環境の維持をお願いしたい。
- ・ 私立高校への進学が増えているので、県立高校も中高連携等をしながら、魅力ある教育活動を進めていく必要がある。

山蔭 深思 釜石地区中学校長会（釜石市立甲子中学校長）

- ・ 多様化している生徒のニーズに対応するため、高校や学科の配置について慎重に検討していただきたい。

- ・ 中学生が学習に向かう意欲を向上させるためにも、募集定員の適正化を検討していただきたい。
- ・ 部活動を理由に私立高校を志望する生徒がいるので、県立高校にも部活動に特化した高校を設置していただきたい。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 専門学科の卒業生の就職者の割合について、全国では令和5年度の学校基本統計調査によると専門学科の卒業生の就職者の割合は49%、県内では専門高校は就職者の割合が62.1%、専門学科については61.6%で、全国に比べて10%以上高い状況である。

佐々木 拓 陸前高田市長

- ・ 高校の魅力化において、陸前高田市では県外の大学と連携して新しいことを企画することについて、ご承知おきいただきたい。

中村 智和 学校教育室首席指導主事兼高校教育課長

- ・ 高校の魅力化のために県外の大学も含めて大学と連携している例がある。何かあれば相談していただきたい。

神田 謙一 住田町長

- ・ PTAにアンケートを取った中で、進学に関して後ほど提供するので参考にしていきたい。
- ・ 岩手県では獣医師も不足しており、獣医師養成に特化した高校があってもよいのではないかと。

小松 伸也 大船渡市教育委員会 教育長

- ・ 共通テストの会場について、震災後、大船渡高校と釜石高校に設置されているが、今後の見通しについて伺う。

中村 智和 学校教育室首席指導主事兼高校教育課長

- ・ 臨時会場について、毎年岩手大学と協議をしながら設置について検討している。今年度の設置についてもこれから協議をしていく。

伊東 孝 陸前高田商工会 会長

- ・ 部員不足による運動部の学校間連携は聞いたことがあるが、学校教育の中での学校間連携はどうなっているのか伺う。

中村 智和 学校教育室首席指導主事兼高校教育課長

- ・ 現状では学校間連携で単位を認めている例はない。

伊東 孝 陸前高田商工会 会長

- ・ 学校間連携について、どのようなことを計画しているのか伺う。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 国において、遠隔教育の要件を緩和したこと等により、学校間連携も活発になるものと思われる。

佐々木 拓 陸前高田市長

- ・ 専門教育については、教科書の内容がすぐに古いものになってしまうので、地元の人材を活用していただきたい。